

『対人関係能力の大切さ』

今の子どもの特徴として、対人関係能力の未熟さがあげられます。このことは、コミュニケーション能力の不足、規範意識の欠如、集団不適應といった社会性の欠如とも言えます。

社会性とは、その社会の価値規範や行動様式、生活習慣に従って社会生活を営むことができるという適応性を意味します。社会性が欠如しているということは、社会の状況に適した態度や行動をとることができない状態に陥ることになります。そのために非行、いじめ、暴力、不登校、引きこもりなどの問題行動が起きるとされてきました。

このように社会性が欠如している背景として、家庭や地域社会の教育機能の低下、学校教育機能の低下、マスメディアの娯楽情報の氾濫、子どもを取り巻く環境の悪化などが指摘されています。

子どもの社会性は、子どもが日常生活において取り結ぶ対人関係を通して形成されます。親、兄弟などの家族、遊び仲間や友人、教師や同級生、地域の人々といった日常生活の中での対人関係を通して子どもは規範意識や行動様式、生活習慣を習得していきます。

したがって、子どもの社会性の欠如といっても、とりわけ対人関係能力の未熟さが問題となります。対人関係能力が未熟なために対人関係を築くことができず、そのためにコミュニケーション能力が形成されず、規範意識も身につかず集団不適應の状態に陥るのです。

対人関係能力の未熟さが問題となりつつあるのはどうしてなのか。その要因の一つとして、私生活化が社会全体に広がっていることがあげられています。私生活化とは、社会とか政治とか地域の問題といった公的なことよりも自分や家族のことといった私的を優先させるという生活態度だそうです。したがって、私生活が最優先となりますから自己本位的な行動が当然のこととなります。

このような私生活化へと変化してきた背景には、現代社会の管理社会化による緊張や疎外からの逃避、権利意識の定着やプライバシー観念の浸透、余暇活動領域の拡大、私的興味・娯楽中心のマスメディアなどがあります。管理社会において人は常に抑圧的な緊張状態や不安などを避けることができずに、疎外感、孤立感、閉塞感を感じるようになります。

そのために、その状況から逃避し、自分や家族のことといった私的なことに満足感や幸福感や楽しみを見い出そうとします。特に近年はプライバシー保護や個人の尊厳が重視されるようになり、個人の権利意識の高まりが顕著になってきています。

こうした私生活化は社会全体に広がり、深化しているのです。

私生活優先主義的な傾向が強まってくると、例えば、モンスターペアレントといわれる学校に無理難題の要求をする親が多くなってきていますが、学校という公的なことから自分の子ども・家族という私的なことを優先して子どもを守ろうとする自己本位的行動が目立ってきたりします。また、親が自分だけの私生活に埋没するようになると自分の私生活を楽しむために育児放棄したり、より極端な場合は、私生活を邪魔されたとして子どもに怒りをうつし乳幼児虐待へというケースも見られます。これは育児という親としての役割よりも自分だけの私生活を優先し、親役割を放棄しているのです。

子どもの生活は、親の生活に大きく依存していますから、親の生活態度や生活の仕方はそのまま子どもの生活態度や生活の仕方に反映します。親が私生活を優先させすぎるが故にいつの間にか自己本位的な行動様式を当たり前としている環境においては、子どもも自己本位的な行動様式・思考様式を身につけていきます。そうすると対人関係づくりにおいては、常々自らの考え方を最優先させようとするため、人間関係がぎくしゃくし、やがては自分の思い通りにならないのは、相手が悪いとか社会が悪いとしかとらえられなくなり、自己を振り返ってみようとする態度もなかなか身につけません。

今、子どもたちの集団活動の重要性が改めて叫ばれています。集団活動は正に対人関係の活動です。自己本位的行動に偏りがちな子どもというのは、つまるところ人間関係能力が未熟であるといえますから、友人や仲間という意見の異なる他人との関係を築いて、他人の存在を認め、他人に共感するという習慣を形成させることが極めて大切なことと考えられます。

子どもたちが生涯にわたって社会の中で充実した人生をおくるためには良好な対人関係を築く能力は欠かせません。